會報と通信

岡山支部通信

昭和二年一月八日　宮原幹事宅で天界研究會.

一月十一日. 平野中佐宅で天體觀測.

二月六日. 同上.

二月七日. 支部で天體觀測.

二月十一日. 善通寺輜重兵第十一大隊長小島大佐と石原太尉との兩名夜分支部を訪問せられ, 天體の觀測及び天文書を閲覽された.

二月十二日. 水野幹事宅で天界研究會.

二月十三日. 武本榮, 元鳥鼎三郎, 上田又次郎, 佐藤千代四氏の宅で天體觀測.

二月十八日. 支部幹事宮原節氏は在外研究員として, 物理學研究の爲め英國に五月上旬鹿島丸で出發せらるゝことに決定した.

二月十九日. 午後一時から倉敷小學校で天文講話會が催され, 水野幹事は「理科書にある天文教材について」講話した.

倉敷通信

1. 第三回公開日, 昭和二年一月十五日午後七時から講演會.

　壽老人星　　水野主事

2. 一月中參觀人.

　十一日　廣島縣税務務監督局技師山下筆吉氏外六名.

　二十八日　山形縣鶴岡市朝陽小學校細井仁三郎氏外二名.

　三十日　岡山縣高松農學校教諭渡邊誠一氏外五十名.

3. 第四回　公開日　二月五日.

　恒星の大さと距離, 同好會員奥田毅氏.

4. 第五回　公開日　二月十九日.

　一月, 二月の天,　　水野主事

　曇天であつたが, 遠來の來會者があつたので, 天文台に案内し, 水野主事が天文台の由來並びに望遠鏡について說明した.

5. 二月參觀人.

　十一日　廣島女學校カレッヂ部長西村靜一郎氏外十二名.

　十二日　岡山縣久米郡弓削町青年團第一支部長　河原榮氏外十名.

滿洲より

久敷御疎遠に打過ぎた罪此事に御座候中村氏に御依頼せし六吋反射鏡「爲明星園釋尼妙貞回向」と刻せるもの既に到着致居候. 此春より之を提げ全滿洲各地に宣傳可仕候,

昨秋は四吋にて奉天, 鐵嶺及遼陽の公衆の爲め土, 木, 火星及月, 並に太陽黑點觀覽に供し申候. 又冬來略本暦の講習を各地に開き二百册賣りつけ申候. 即ち吉林, 長春, 奉天, 撫順, 海城, の各小學校職員及有志者を中心とせるものに御座候.

未筆にて相濟み申さざる次第に御座候へ共科學大系別刷天文學御惠贈被下難有御禮申上候. 先は右御禮かたがた近狀まで. 頓首. (三月一日, 西岡永太郎)

札幌より

山本先生!! 久しく御無沙汰し誠に申譯も御座いません. 支部はさゝやかながらも熱心者五六名にて, かなり研究を致さうと試みて居りますものゝ立派な指導者のなき我々は排常に心細さを感ずることが始終です. 白根君は臺灣の方に四月からお出になる樣です. 太陽觀測は此の一月から帶廣の岩井君が觀測を始めました. 一月の成績は「プリント」の通り二日だけ缺けて居ります. 一月始めは眼がなれない樣でしたから或はかなり實際のものと異つて居るかも知れません. 二月の分は近々お送り致しますが, 二月は餘りによくなく缺けた日が五日もありますが札幌よりは天氣がよい樣です. 私は四月の始めに滿洲へ參ります, 歸途は必ず京都へよります, その時先生にお會ひ出來ます事のみを樂しんで居ります. 多分京都へは十六日位になるでせう. その頃同好會の總會でもあれば幸と思つて居りますが, 昨年は, なんでも四月の樣に思つて居りましたが. 昨日から試驗が始つて眼のまはる程忙しいのであります. 終るのは十九日であります. 北國の冬もそろそろ去らうとして居ります. 「オリオン」も大分西に傾いて春の近づいたのを思はせます. 此の間此の樣な歌をよみました.

雪あれど春のめばえのおとづれは. とりのこえにも知られてけらし. (三月八日夜, 米田勝彦拜)

神戸で定期總會

既報の如く，來る5月7日から9日まで，三日間，神戸市に於いて，本會の定期總會が開かれる。(別紙の附錄を見られよ。)之れは本會の甲南支部と神戸支部との斡旋によるもので，此の機會に又，兵庫縣教育會と神戸市教育會との聯合主催の天文學講習會及び通俗講演會が開かれる。卽ち

天文學講習會——5月7日から9日まで，題は「**現代の天文學**」

7日午後2時，1. 星空觀察法　2. 天體の運行　3. 天文智識の應用，(夜は實地觀測)

8日午前9時，4. 太陽系の諸天體　5. 恒星界の最近智識一般，(夜は實地觀測)

9日午後2時，6. 天體宇宙の構造　7. 望遠鏡と天文臺，(夜は天文活畫「**宇宙の驚異**)」

講師は山本一清博士，場所は神戸市教育會館，

通俗講演會——神戸市內の各所にて，8日午後7時より一齊に開催，講師と演題は

理學博士　山本　一清氏，「**土星の話**」
理　學　士　上田　穰氏，「**宇宙の廣さ**」
理　學　士　竹田新一郎氏，「**星といふもの**」
理　學　士　能田　忠亮氏，「**最近の宇宙觀**」
京大天文臺　中村　要氏，「**月世界の話**」

天文同好會總會——8日(日曜)午後四時より開く，會の事務や會計報告，新議案いろ々々，役員改選等。

消　息

新城新藏博士　去る3月末，京都出發，朝鮮や南滿州を經て，支那北京へ，學術上取調べのため出張せられた。約一ヶ月の後，歸洛の豫定。

平山清次博士　先頃より病氣にて，東京の自宅に引きこもり中の由，快癒をいのる。

松隈理學士　東北帝國大學助教授の同氏は，かねて，1925年より歐洲に滯留研究中のところ，去る二月歸朝，岡山，東京に暫く休養の上，四月上旬，仙臺へ歸學。

山本一清博士　四月初め東上，東京帝國大學で開催の，數學物理學會に出席其の滯京中，四月三日午後，東京博物館內に開かれた天文同好會東京支部茶話會に臨み，其の後同所の通信講演會で「地球の天文學」を講演(之れの概要は六月號の理學界に揭載の筈)四日歸洛。

神田茂理學士　去る三月末，京都帝國大學天文臺を訪問，28，29兩日滯洛の後，名古屋を經て歸東せられた。滯洛中，山本，上田，荒木，竹田，能田，中村諸氏と會談，大阪からは百濟理學士も來會せられた。

關口技師　今般，東京中央氣象臺へ轉じて，太陽の輻射を研究せられる由，神戸海洋氣象臺の方は兼任となつた。

川崎俊一技師　四月初旬，東京及び京都へ出張，暫く兩地に滯在の上，中旬水澤に歸任。